

## □ステーション 1 (関節可動域検査, 形態測定) : 学生提示課題

整形外科疾患 (TKA) 患者情報

手術後, 初回の理学療法による治療を受ける患者様について, つぎの項目の評価・実技を行ってください.

課題①: 右人工膝関節術後 2 週間の患者に対して評価のオリエンテーションを行ってください.

課題②: 手術側膝関節伸展および屈曲の関節可動域検査と, 手術側膝蓋上 5 cm, 10 cm における周径の計測を実施して下さい.

### 1. 患者情報

患者氏名: 福岡太郎 (女性の場合: 福岡花子) 様 (79 歳) 無職

診断名: 両側変形性膝関節症, 右腓骨神経麻痺

既往歴: 高血圧, 心筋梗塞

現病歴:

平成 20 年ごろより両膝関節の痛みを訴え, 近医受診し変形性膝関節症の診断にて継続して診療を受ける.

平成 24 年 11 月 20 日, 右膝関節の疼痛増大と変形の進行により当院整形外科紹介受診後に入院となる.

平成 24 年 11 月 23 日, 右膝関節人工関節全置換術 (TKA) をセメントレスで施行. 術後ギプス固定不良にて腓骨神経麻痺となる.

主訴:

手術側膝関節が十分に曲がらない, 手術側膝を曲げられると痛い.

右膝から下の感覚がわかりにくい, 左膝も痛くて手術予定.

ニーズ: 早く右足をついて歩きたい.

要望: 庭いじり, 散歩, 買い物

リスク: 3 週までの非荷重, 高血圧, 心筋梗塞.

本日の体調:

とくに高血圧や心筋梗塞の症状はない. 夜もよく眠ることができ, 今日とはとくに気分は悪くない.

術側の下肢についても病棟においてはとくに痛みもない.

### 2. 障害像

1) 右人工膝関節 (セメントレス) 術後 3 週間経過し, 荷重は非荷重で認知症等神経系の合併症はない.

2) 抜糸後であり, 創部の治癒は順調である.

3) 医師からの術後予定: 術後 4 週で歩行器使用し部分荷重歩行開始.

補足事項:

1) 患者様とは初対面とする.

2) すべての検査が終了したら, 患者に終了のオリエンテーションを行い終了とする.

## □ステーション 1 (関節可動域検査, 形態測定): 標準模擬患者シナリオ

1. 手術側 (右側) の関節可動域は膝関節伸展 0° (自動, 他動), 膝関節屈曲 90° (自動) であり, 膝関節屈曲 90° (他動) 以上で膝関節前面に疼痛出現.
2. 手術側 (右側) 膝関節の筋力は膝関節伸展, 屈曲ともに 4.
3. 健側 (左側) の関節可動域は正常であるが, 筋力は 4.
4. 手術側 (右側) 足関節の筋力は背屈, 底屈ともに正常.
5. 術側 (右側) の総腓骨神経麻痺があり, その領域は表在感覚において完全消失である.

### 関節可動域検査

- 4) 関節可動域検査を測定する旨を説明し, 了承を得たか.
  - ①説明を聞く際は, その内容は問わず傾聴する.
  - ②声が聞き取りにくい場合は, 「耳が遠いので, もう一度お願いします。」など聞き返す.
- 5) 測定時の肢位は適切であったか.
  - ①測定肢位をとる際, 右膝関節 90° 屈曲をとった場合は痛みを訴える.
- 9) 実施中, 痛みを確認しながらできていたか.
  - ①他動的な関節可動域検査で右膝関節屈曲 90° になったら, 疼痛を訴える.
  - ②角度計の当てかた, 他動運動時の力の入れ方など不快な場合は表明する.

### 形態測定

- 10) 形態測定する旨を説明し, 了承を得たか.
  - ①説明を聞く際は, その内容は問わず傾聴する.
  - ②声が聞き取りにくい場合は, 「耳が遠いので, もう一度お願いします。」など聞き返す.
- 11) マーキングは適切に行えたか.
- 12) メジャーを正しく使用できていたか.
- 13) 正確な場所を測定できたか.
  - ①測定肢位をとる際, 右膝関節 90° 屈曲をとった場合は痛みを訴える.
  - ②術側 (右側) 下肢を必要以上に動かしたり, 急に動かすなどした場合には痛みを訴える.

## □ステーション 1 (関節可動域検査, 形態測定) : 評価基準

### 基本的態度

#### [患者への配慮]

- 1) 挨拶, 自己紹介をしたか.
  - 1点: 初対面であることをふまえた適切な挨拶, 自己紹介をした.
  - 0点: 適切な挨拶, 自己紹介ができなかった.
- 2) 障害部位および本日の体調の確認をしたか.
  - 2点: 今回評価する部位および体調の確認をタイミングよくした.
  - 1点: 今回評価する部位および体調の確認をしたがタイミングが悪かった.  
今回評価する部位および体調の確認のどちらかをタイミングよくした.
  - 0点: 今回評価する部位および体調の確認をしなかった.
- 3) アイコンタクト
  - 2点: 会話中に視線の高さおよび距離に配慮していた.
  - 1点: 会話中に視線の高さおよび距離のどちらかに配慮しなかった.
  - 0点: 会話中に視線の高さおよび距離に配慮しなかった.  
相手の目を見て話していなかった.  
相手との距離が近すぎか, または遠すぎた.

### 関節可動域検査

#### [患者への配慮]

- 4) 関節可動域検査を測定する旨を説明し, 了承を得たか.
  - 1点: 説明し, 了承を得た. 説明の内容は問わない.
  - 0点: 説明していない. 了承を得ていない.

#### [測定]

- 5) 測定時の肢位は適切であったか.
  - 1点: 膝関節屈曲, 伸展ともに背臥位, また膝関節屈曲は股関節屈曲位で行った.
  - 0点: 疼痛を誘発する肢位や角度計がきちんと当てられない肢位であった.
- 6) 自動運動が可能か確認したか.
  - 1点: 膝関節屈曲・伸展の自動運動を行わせたか.
  - 0点: 膝関節屈曲・伸展の自動運動を行っていない.
- 7) 膝関節屈曲・伸展計測時の基本軸・移動軸は正確か.
  - 2点: 基本軸は大腿骨 (大転子と大腿骨外顆を結ぶ線),  
移動軸は腓骨 (腓骨頭と外果を結ぶ線) を触診で位置確認し角度計を当てた.
  - 1点: 基本軸, 移動軸の位置確認はせず角度計を当てたが, ほぼ正確であった.
  - 0点: 軸が正確でなかった.
- 8) 角度計の使用は正しかったか.
  - 2点: 測定に適切な角度計 (今回は中, 大の角度計) を選択でき, 目盛りをきちんと確認できる位置であった.
  - 1点: 角度計の選択はできたが, 目盛りが正確に読めていなかった.
  - 0点: 角度計の選択ができなかった. 目盛りが正確に読めていなかった.

9) 実施中、痛みを確認しながらできていたか。

2点：検査中、適時「痛くないですか」などの声掛けと表情により痛みに対する確認をタイミングよくした。

1点：検査中、痛みに対する確認を行ったが、タイミングが悪かった。

0点：検査中、痛みに対する確認を行わなかった。

## 形態測定

### 〔患者への配慮〕

10) 形態測定する旨を説明し、了承を得たか。

1点：説明し、了承を得た。説明の内容は問わない。

0点：説明していない。了承を得ていない。

### 〔測定〕

11) マーキングは適切に行えたか。

2点：マーキングすることの了承を得てマーキングを行った。

1点：了承は得ずマーキングを行った。

0点：マーキングは行わなかった。

12) メジャーを正しく使用できていたか。

2点：メジャーを大腿の長軸に対し直角に当てて行った。

1点：メジャーを大腿の長軸に対し直角に当てて行ったが、テンションの量が適切でなかった。

0点：メジャーを大腿の長軸に対し直角に当てていなかった。

メジャーをねじれたまま使用していた。

目盛りを読むのに適切でない当て方をしていた。

13) 正確な場所を測定できていたか。

1点：手術側（右側）膝蓋骨上縁より大腿の長軸方向に5cm、12cmを測定した。

0点：手術側（右側）膝蓋骨上縁より大腿の長軸方向に5cm、12cm以外を測定した。

## 表在感覚（触覚）検査

### 〔患者への配慮〕

14) 実施時に適切な言葉づかいはできていたか。

1点：敬語を使って、わかりやすい言葉で表現していた。

0点：専門用語が多くわかりにくかった。

敬語を使っていなかった。その他、相手が不快に感じる言葉使いであった。

15) 検査・測定後の全身状態について確認したか。

1点：検査・測定後、疲れていないか、痛みが強くなっていないかを確認した。

0点：検査・測定後、疲れていないか、痛みが強くなっていないかを確認しなかった。

□ステーション 1 (関節可動域検査, 形態測定) : 評価シート

課題①関節可動域検査および形態測定

理学療法学科	昼間部	第	学年	氏名	評価者	配点
【患者への配慮】						
1) 挨拶, 自己紹介をしたか						1 0
2) 障害部位および本日の体調の確認をしたか						2 1 0
3) アイコンタクト						2 1 0
関節可動域検査						
【患者への配慮】						
4) 関節可動域検査を測定する旨を説明し, 了承を得たか						1 0
【測定】						
5) 測定時の肢位は適切であったか						1 0
6) 自動運動が可能か確認したか						1 0
7) 膝関節屈曲・伸展計測時の基本軸・移動軸は正確か						2 1 0
8) 角度計の使用は正しかったか						2 1 0
9) 実施中, 痛みを確認しながらできていたか						2 1 0
形態測定						
【患者への配慮】						
10) 形態測定する旨を説明し, 了承を得たか						1 0
【測定】						
11) マーキングは適切に行えたか						2 1 0
12) メジャーを正しく使用できていたか						2 1 0
13) 正確な場所を測定できていたか						1 0
【患者への配慮と対応】						
14) 実施時に適切な言葉づかいができていたか						1 0
15) 検査・測定後の全身状態について確認したか						1 0
総合印象: 問題が 有□, 無□ ※問題が有とした際の具体的内容						記録 点